

IPAP (2004) : International Psychopharmacology Algorithm Project

International Psychopharmacology Algorithm Project: Algorithm for Treating Schizophrenia 2004

国際精神薬理アルゴリズム計画 (IPAP) は米国国立精神保健研究所 (NIMH) にサポートされ、米国中心に活動を開始し、その後欧州各国や日本も参加している。1995年に米国版アルゴリズム初版が刊行され、その後非定型抗精神病薬の開発が進み1998年に改訂され、さらに非定型抗精神病薬の取捨選択も行われ (amisulpride, アリピプラゾールが追加され、ゾテピンとsertindoleが外れた)、改訂されたのが2004年の最新版である。アルゴリズムとその解説に留まらず、様々な治療状況や副作用、それに応じた薬物選択や薬物治療の原則などの解説やエビデンスレベルも示されており、インターネット上から入手可能となっている。なおIPAPに準じて、1998年に精神科薬物療法研究会が国内初の統合失調症のアルゴリズム (IPAP-J 1998) を開発しており、日本版アルゴリズムの2003年版プロトタイプ (IPAP-J 2003) も公開されている。

薬物療法の原則の概要のみ列挙する。①低用量から開始し (A)、心理社会的介入と同時に行うことでアドヒアランスと地域生活を最適にする (A)。②反応性と副作用を標準化された評価尺度で定期的に評価する (A)。③効果や副作用、年齢などを考慮し、投薬は個人に応じて調整し (A)、治療期間を通して薬物療法に関する情報提示と評価を行う。④単純な処方治療アドヒアランスを促進し (A)、コンプライアンス不良の場合には持続性注射剤が好まれる (A)。

SAMPLE

参考文献

International Psychopharmacology Algorithm Project Schizophrenia Algorithm 2004.

<http://www.ipap.org/schiz>

Zarate CA Jr, Daniel DG, Kinon BJ, Litman RE, Naber D, Pickar D, Sato M. Algorithms for the treatment of schizophrenia. *Psychopharmacol. Bull.* 31 : 461-467, 1995.

Pearsall R, Glick ID, Pickar D, Suppes T, Tauscher J, Jobson KO. A New Algorithm for Treating Schizophrenia. *Psychopharmacol. Bull.* 34 : 349-353, 1998.

精神科薬物療法研究会編 (責任編集: 佐藤光源, 樋口輝彦, 山脇成人) 精神分裂病と気分障害の治療手順—薬物療法のアルゴリズム, 星和書店, 東京, 1998

